

議 事 録

公開・一部公開・非公開			部 分 非公開 理 由		
健康福祉部長	子ども家庭支援課長	子ども家庭支援係長	係		文書管理責任者
	福祉課長	福祉推進係長	福祉援護係長	保存期間	30（ ）・10・5・3・1・随
	健康推進課長	保健係長			
教育部長	教育課長	学校施設係長			
				作成日	令和6年12月24日
	保育課長	保育係長		記録者所属	子ども家庭支援課子ども政策係
				職・氏名	係長 大塚 しのぶ 印

会議等の名称	令和6年度 第2回子育て支援審議会	開催日時	令和6年11月27日（水） 午後1時30分～午後3時20分
		場 所	本庁舎2階全員協議会室
主催者(事務局)	子ども家庭支援課	司会者	司会進行：小林課長 議事進行：小池会長
出席者	【委員】小林由美委員、土屋千夏委員、岡田和子委員、小池道子委員、所千恵委員、関旦子委員、月岡栄子委員、吉田周平委員、森澤隼門委員、五十嵐英美委員、谷貴人委員 【事務局】寺田嘉彦健康福祉部長、小林裕次子ども家庭支援課長、掛川一郎福祉課長、武井淳一健康推進課長、土屋岳史教育課長、春原和美保育課長、土屋佐知子子ども家庭支援課主幹、塩入卓也子ども支援係長、大塚 (傍聴者あり)		
欠席者	五十嵐江利子委員、田丸憂太委員、鈴木沙也可委員、只木とも子委員、尾形裕子委員		

議 題	(議題) (配布資料) 別紙会議資料のとおり ・第1期東御市こども計画(素案)について ・第1期東御市こども計画(素案)のパブリックコメントについて	
次回への検討事項	特になし	
次回開催	(日時) 令和7年2月20日(木) 予定	(場所) 本庁舎2階全員協議会室
討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
1 開会	事務局	
2 会長あいさつ	会長	
3 市長あいさつ	市長	
4 諮問		花岡市長から小池会長に第1期東御市こども計画の策定について諮問

討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）
5 協議事項 (1) 第1期東御市 子ども計画（素 案）について	会長	協議事項に入る。 それでは、協議事項(1) 第1期東御市子ども計画（素案）について、事務局から説明をお願いしたい。
	事務局	資料1及び別冊について説明
	会長	意見、質問等はあるか。
	委員	障がい児に関して支援が入った場合、途中経過の報告や改善がみられるのか、また支援はいつまで続くのか。 支援サービスの周知や情報発信の努力をしていると思うが、サービスが周知され、サービスを活用されることで、心配や負担が軽減されると思うので、頑張って発信して欲しい。
	事務局	障がい児の支援に関しては、計画の61ページの障がい児福祉の充実に挙げている。関連計画に障がい児・者の計画があり、そちらの計画を中心に施策を行っていくが、乳幼児健診から、保育園、小学校、中学校へと切れ目なく支援を継続し、それぞれの段階でこどもに応じた支援計画を作りながら支援をしていく。障がいはなくなるものではないので、大人になっても引き続き支援が必要な方もあるし、支援がなくても自立できる方もある。段階に応じて、支援を入れたり外したりしながら、切れ目なく支援していく。 市で様々なサービスを行っているが知られておらず、周知については市でも課題に感じている。市報やイベントなどで周知に力を入れていく。また、年齢に応じたブッシュ型情報発信もしているので、情報発信ツールにつながっていただくようにしていきたい。
	会長	障がい児に関しては切れ目なく対応していくということである。 情報発信については、アウトリーチもして欲しい。
	委員	市の人口、出生数、合計特殊出生率、すべてが減少しており大問題である。市に魅力がないということの表れではないか。岡山県の奈義町では合計特殊出生率が2を超えたという報道があった。市全体でどのように取り組んでいくのか。 家族だけでなく地域も子育てを支える環境づくりが必要だと考える。住宅街にある保育園に、こどもの声がうるさいというクレームがくることもある。こどもは宝として、市民全体で子育てしていくにはどうしたらいいのか。それが一番問題だと思う。 滋野にはおらちの縁側を作りこどもを集め、そこで子育て相談ができればいいと思う。相談に来てもらうことは敷居が高い。地域に場所があり、そこへ行けば相談できる、相談できる人がいるようになれば、地域全体で子育てができるのではないかな。 ファミリー・サポート・センターはずっと話が出ているができていない。近隣ではやっている自治体がある。多くの市民に子育て支援に参加する仕組みをもっと積極的に作るべきだと考える。地域でこども・子育ての相談や一時預かりができる場所を作るべきだと感じている。
	事務局	ファミリー・サポート・センター事業は、利用者と提供者のマッチングが難しく、実現してこなかったと聞いている。ニーズ把握と提供できる方の掘り起こしや、他の仕組みでニーズに対応できないかなど、市内や地域の皆様にも協力いただきながら、地域全体で子育てを一緒に支える環境を作っていきたい。各団体の皆様から知恵をお借りして検討していきたい。 市内のこども食堂の情報発信などもしているが、そうした取組が地域に広がっていくような支援ができないかも考えていきたい。
	委員	最初から全部成功しようとしてもできないし、続けていかないとできない。その考えではずっと実現しない。市役所だけやろうとするのは限界である。今の回答は不満足だ。
	事務局	完璧を目指してはできないことや必要性は重々承知している。必要だということを前向きに捉え、何ができるかを引き続き検討するし、できるところから実施していきたいと考えている。他市町村の情報も収集し、皆様からもご意見いただきながら取り組んでまいりたい。
	委員	ヤングケアラー実態調査を実施するということだが、他市町村の話で外国籍のこどもの保護者が日本語がわからず、病院や保育園などの話し合いにこどもが学校を休んで通訳に行く、という話を聞いたが、それはヤングケアラーになるのか。これから実施する実態調査では、そうしたこども達も把握して、手立てを講じてほしい。
	事務局	外国籍の保護者の通訳もヤングケアラーに当たる。市では通訳者を雇用しており、通訳者が対応できる言語であれば、病院受診や各種手続きなどに通訳者が同行している。市の通訳者が対応できない言語は、長野県のヤングケアラー支援に通訳者派遣事業があり、それらを活用しながらこどもが通訳のために学校を休まなくていいようにしていきたい。 実態調査は他市町村の事例なども研究し、こどもの実態がわかる調査にしていきたい。
	会長	実態調査の時期は決まっているか。
	事務局	具体的な実施時期は未定。なるべく早期に開始したい。
	会長	計画に記載の小学生7人、中学生16人はヤングケアラーには当てはまらなかったのか。

討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）
	事務局	2022年実施の調査は任意の記名式で、小学生7人、中学生16人のうち、記名してくれたこどもに聞き取りをした結果、ヤングケアラーには当たらないという結果だった。しかし、実際にヤングケアラーはいない、と断定できる結果ではない。
	委員	子育てする上で、支えてもらう側は困ったことがあったらどうすればいいか、どこに相談すればいいかなど、わかりやすくなってきていると感じる。 逆に、地域などの支えたい側が何ができるのか。時間的なものか、送迎などこどもに直接関わるのか、様々な角度からサポートできると思うので、どんなサポートができるのか、具体的に示してもらえると、サポートしてくれる人も増え、安心して子育てできと思う。
	事務局	ファミリー・サポート・センター事業に該当するかと思う。できることから進めていきたいと考えているので、子育て家庭がどんなことを必要としているかを集め、それを地域の方にやっていただけるかを具体的に考えていきたい。
	委員	里山関係の活動を13年続けている。自然に触れながら地域のあり方に関わっているが、特別なことを用意しなくても、時間と場所を用意すればこども達は遊びだす。そうした物が形になってきている。 今年度は県の補助事業を活用し、プレイパークを市内に設置したいと活動している。練馬では放課後プレイパークという、放課後の校庭を使ってこども達が自由に遊べる取組をしている。 市では校庭で自由に遊ぶのは難しいと聞いているが、比較的安全にこどもが遊べて、地域の方も集いやすいのではないかなと思う。安心できる居場所の整備として、商業施設や遊べる場所を求める声が一番多いとのことで、あまりお金をかけずにできることがあると思う。そうしたことを一緒に考えさせてもらいたい。
	事務局	こどもにとって身近な場所が集いやすい場所だと思う。いろいろな意見を聴いて、皆様に話し合いができればと思う。 居場所としては、今年度から「子ども第三の居場所」を整備し、小学校近くに居場所ができています。
	事務局	放課後の校庭を使った事業として、72ページにある放課後こども教室（げんき塾）を小学校の体育館で実施している。運動が苦手や嫌いなこどもが増えてきている中で、今年度は20回ほどSany TOMIに委託して実施している。
	会長	げんき塾は主任児童委員も各地区で関わっている。5校で各校4回で計20回となっている。北御牧は30人ほど参加しているが、もっと参加が広がるようさらに周知などをしたい。
	委員	こどもとの接し方が難しい世代が増えてきているが、こどもを育てて親になっていく。こどもの視点が計画には多く書かれているが、親も一緒に成長する視点も必要だと感じた。また、経済的な負担も感じる。教育方針が変わっていく世の中で、その共有ができていないと保護者も教育に関してわからない。学年ごとの保護者へのサポートもできると、子育てと両面で支え合える計画になると思う。
	事務局	親が成長できる機会の提供について、こどもとどう接していいかわからないという保護者が増えている要因として、親自身が小さいこどもと接する機会がないまま大人になっている、核家族化などで子育てを相談できる人が近くにいないなどが挙げられる。 49ページの親子の愛着形成の支援において、こどもとの接し方などの支援として、ペアレントトレーニングや育児座談会など実施しており、それらを周知していく。講座として教えるだけでなく、親同士の仲間を作り、こどもとの関わり方を語り合う中で、共に成長していただける機会としたい。 また、発達に特性があるこどもの子育てには難しさがある。そうしたこどもへの適切な関わり方を知ってもらうとともに、保護者の気持ちとこどもの育ちの両面で支えることで、こどもの成長が促され、保護者もこどもに対してイライラしなくすみ、ひいては虐待予防につながる。50ページにあるように、そうした理解を促すきっかけを多く作っていく必要がある。
	会長	育児座談会はとても有意義な時間だと思う。しかし、そこに来られない親子もいる。そうした方へのアウトリーチや、地域の方がどのように関われるかがポイントになると思う。
	委員	こどもを預かる現場としては、出生数の減少や未婚率の増加が気になる。こどもの数が減り続けたら、預かる施設も統合せざるを得なくなる。どうしたら結婚や子育てをしたいと思える市になるのか。もっと特色のある施策を出して、移住者やこどもの数を増やす取り組みが必要である。
	事務局	いかに市で子育てする人を増やすかを考える必要がある。今年度、市のまち・ひと・しごと創生総合戦略を企画振興課で策定している。その中に子育てに関することも載ることとなる。まちづくりの中で力を入れて実施するようにしたい。
	会長	市全体で推進していったらいい。

討議内容及び経過	（発言者名）	（発言内容）
	委員	外国籍のこどもが増えている。母は日本語ができるが、父は日本語をあまり使わない。また、子育てへの価値観の違いが課題となることがある。こども食堂は成果を上げているが民間任せでいいのか。こども食堂を利用するに至ったさまざまな事情を聴く人がいることが大きい。本当に困っている人は、困っていると言えない。そこを聴くことは難しい。 また、海外では一定の年齢までこどもに電子媒体を与えない国もある中で、一律に電子媒体を与えるのではなく、こども達の幸福感や本当に満足しているのかを大人は耳を傾ける雰囲気を考えないといけないのではないかと。
	事務局	15ページにあるが、まいさば東御への生活困窮に関する新規相談は75件で、そのうちこどもがいる家庭は1/3を占めている。しかし、これは氷山の一角で相談に来られない方も多い。地域の関係の希薄化、孤立化が進んでいる。地域とのつながりをもっと増やし、社会的孤立の問題に対応していく必要がある。62ページにこどもの貧困対策の推進があるが、あらゆる機関との連携の中で、早期発見、早期対応していくことが大切であると理解している。
	会長	引き続き取り組んでもらうとともに、力を借りたいということがあれば、指示していただければ私達にもできることがあると思う。
(2) 第1期東御市こども計画（素案）のパブリックコメントについて	会長	協議事項(2) 第1期東御市こども計画（素案）のパブリックコメントについて、説明をお願いしたい。
	事務局	次第5(2)により説明
	会長	意見、質問等はあるか。
		（意見等なし）
	会長	本日用意された協議事項は終了となる。
6 その他	事務局	その他で何かあるか。
	事務局	次回会議の開催日程について説明
7 閉会	事務局	閉会